



ドクターヘリの運航状況について説明を受ける  
上田氏(左から2人目)と党神奈川県議団

## ドクターヘリ支援に全力

### 上田氏と現場の取り組みを視察 党議団

神奈川県

公明党神奈川県本部の上田勇代表(前衆院議員)と党神奈川県議団(鈴木秀志団長)は14日、神奈川県伊勢原市にある東海大学医学部付属病院(猪口貞樹病院長)で運用されているドクターヘリを視察し、運航状況や課題について関係者と意見を交換した。

同病院のドクターヘリは神奈川県全域と山梨県の一部地域をカバーし、2010年度の搬送患者は278人。このうち、ドクターヘリによる治療上の効果が認められた症例は51・6%に上っている。運航時間は現在、パイロットが目視で飛行できる日中のみで、待

機中や夜間はヘリにシートを掛けて風雨を防いでいるという。猪口病院長は、「夜間にまで運航時間を延

長するには、離着陸場を明るく照らす照明設備が必要だ」と指摘。さらに、機体を保管・整備する格納庫の設置を含め、運航態勢の拡充や改善に要する費用を今後どう確保するかといった点を課題として挙げた。

上田氏は、「1人でも多くの命を救うため、運航態勢の強化に必要な支援に全力で取り組みたい」と関係者に伝えた。